

## 新岳および古岳

日本南西部にある薩南群島の中で最も大きい火山島である口永良部島は、複数の火山から成り、そのうち古岳（649 m）と新岳（657m）は今も活動を続けています。

### 火山景観

活火山である古岳と新岳の景観は噴気孔、噴火口、また火山亀裂を特徴としています。これらの火山は約 500,000 年前に水中で形成されたと考えられており、15,000 年前と 11,000 年前の二回にわたって大きな噴火が起こったことが知られています。最近では、これらの火山は数年もしくは数十年ごとに断続的に噴火しており、1933 年と 1934 年に起こった噴火は火口の 1.7 キロメートル東にあった七釜集落を全滅させるのに十分な大きさでした。地表に噴出したマグマの大半は安山岩質溶岩です。主に水蒸気から成る噴煙が常に立ち上っています。島の北海岸にある向江浜（2015 年の噴火に伴い閉鎖）、西ノ湯、および寝待温泉といった場所では土壌が掘り取られたところに地下から熱水が湧いてきます。スキューバダイバーたちは著しく温かい水温に付随して海底から泡が生じるのを見たと報告しています。

### 2015 年の噴火の教訓

新岳は 2014 年八月 3 日に 34 年ぶりに噴火し、さらに 2015 年五月 29 日に再び噴火しました。2015 年の噴火は灰の噴煙を約 9,000 メートル上空まで届け、すべての島民とその家畜は、隣島の屋久島に避難することを余儀なくされました。島民は半年近くに及ぶ長い避難生活で疲れ果て、次にまた噴火が起こったとしても島を離れる気にはなれなくなりました。その後、島民が将来は島から避難しないで済むようにと、避難施設とヘリポートが番屋ヶ峯に建設されました。避難訓練は頻繁に行われています。学校では、教師たちは事前に取り決められた配置で車を駐車し、噴火の際に効率的に生徒たちを避難させられるようにしています。避難施設や経路は定期的に点検されています。気象庁の職員も火山活動を監視するため定期的に訪れます。火山の活動を記録するビデオカメラが地方官庁によって設置され、また、分析のために福岡管区气象台送信される値を測定する機器が島の至る所に設置されています。